

# 奄美地域マンゴーの無加温ハウス栽培におけるターム水溶剤による着花安定

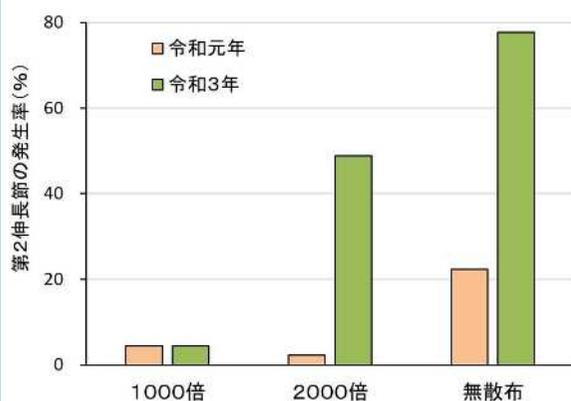
ターム水溶剤1,000倍を1回散布すると、発蕾や開花遅延の原因となる第2伸長節の発生が抑制され、着花が安定する

## 背景・目的

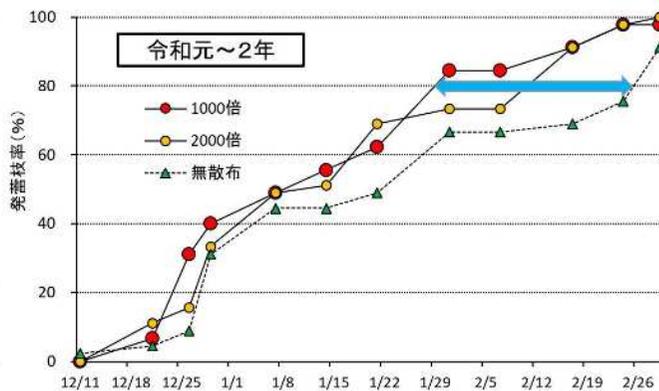
- ・奄美地域ではマンゴーを無加温ハウスで栽培しているため、気温の影響を受けやすい
- ・暖冬年に第2伸長節が発生すると、花芽分化が遅れることにより、着花不良となる園が見られる
- ・ターム水溶剤の散布が、第2伸長節の発生抑制効果、着花や収穫期等に及ぼす影響を検討

## 成果の内容

- ・ターム水溶剤を第2伸長節の発生抑制に使用する場合、8月上中旬に剪定後、第1伸長節が緑化した9月下旬から10月上旬に、1,000倍で1回散布すると効果が高い
- ・1,000倍散布により、発蕾や開花は暖冬年においても遅れず、着花が安定
- ・散布により花芽割合は高まり、花穂の形状や果実品質等に影響しない



ターム水溶剤の散布が第2伸長節の発生率に及ぼす影響



ターム水溶剤の散布が発蕾枝率に及ぼす影響（暖冬のシーズン）

注) ⇔は1000倍と無散布の発蕾枝率80%到達日の差を表す

## 期待される効果

着花安定により盆前の高単価期に収穫できる



適期に剪定でき、翌年の着花が安定（生産の好循環）

農業所得の向上，経営安定

○普及対象・範囲：奄美地域の無加温ハウス栽培マンゴーの生産者

鹿児島県農業開発総合センター  
大島支場亜熱帯果樹研究室 (R04)